

# 長野県庭球二十年史

## 『長野県庭球二十年史』発刊によせて

長野県庭球協会々長 山本清一郎



信州では戦前より軽井沢で、夏季避暑客によるテニスが盛んに行われていましたが、県内には庭球団体がありませんでした。昭和22年甲子園で、第1回マックァーサー元師杯全国都市対抗三競技大会が開催され、軟式庭球甲信北越地区代表として松本市チームが出場いたしました。当時長野県軟式庭球連盟理事長の私は一般男子の選手で、少年の選手の沓掛源生君（松商）と共に隣のコートで試合中の庭球競技を観戦し、すばらしい庭球の魅力にすっかりとりつかれてしまいました。

沓掛君は日大に進学し、日大庭球部を創立して昭和27年卒業、松本にテニスグループを作りました。それが松本ローンテニスクラブに発展し昭和29年上田、岡谷の振興と共に長野県

庭球協会の誕生となり、関東庭球協会と長野県体育会に加盟が承認されました。

松本ローンテニスクラブは、昭和31年松本県営運動場に庭球コート4面を新設し長野県に寄附採納し、昭和35年には松本市営野球場西側に庭球コート4面を新設し松本市に寄附採納しました。そして社会人団体と学校庭球部の振興と庭球の普及に努力が重ねられました。又関東庭球協会々長の藤川博氏の御協力により15年間にわたり朝日生命テニス教室が松本、上田で開催され技術向上と庭球人口拡大の基礎が作られました。講師の鶴原謙造氏と宮城黎子さんには特に永くお世話になりました。長野県庭球協会の充実、発展が日本庭球協会、全国高校連に認められ昭和42年度全国高校総合体育大会、第57回全国高校庭球選手権大会（インターハイ）が松本市で開催され、女子単優勝沢松和子さんはじめトップレベルの試合観戦により地元高校庭球の振興に大いに役立ちました。昭和46年松本市において第25回全国都市対抗三競技大会（庭球・卓球・軟式庭球）が開催され好評裡に大会を終了しました。（優勝都市池田市）この大会を契機に静岡ローンテニスクラブ（浜下市造理事長）と毎年親善試合が行われるようになりました。県庭協は創立以来17年間関東庭球協会加盟団体として、指導育成を受けて参りましたが、北陸庭球協会の数年にわたる強い要請により昭和47年4月より北陸庭球協会の加盟団体となり国体地区予選及び全国都市対抗共北信越地区参加となりました。協会名も長野県加盟により北信越庭球協会と改められました。それまではそれぞれの大会要項により国体は北陸予選、全国都市対抗は関東予選に出場していました。関東庭球協会には同協会理事会にて今後長野県は賛助県として関東庭球大会等に出場することが承認されました。又昭和53年長野国体に備えて昭和52年松本市において関東庭球大会開催が決定されておりますので大会運営の募金を期したいと存じます。

昭和49年度全日本選手権大会（大阪）に初めて4名の選手（一般男子小林洋一・新村均組、壮年伊藤祐一・山本清一郎組）が参加できましたことは大変嬉しいことでした。創立20年を迎え歴史を回顧し、53年「長野国体」の成功を目指して飛躍の前進と充実を期すべきとき「長野県庭球二十年史」の発刊は誠に意義深いものがあります。この発刊について大会記録の集録に努力された、三村明君に感謝の意を表し、発刊のことばといたします。